

新潟県送出の清和開拓団の悲劇

新潟県送出の「第7次清和開拓団」の逃避行中の犠牲は特筆されなければなりません。

1938年(昭和13) 全県から募集し、主に刈羽、中蒲原、北蒲原出身者が多数を占めた「第7次清和開拓団」。満州の虎林県清和地区に入植。虎林駅から東北約16キロの地点にありました。1945年(昭和20)3月時点には開拓団員数は195戸、810人(うち成年男子144人は応召)でした。入植7年目、開拓事業も着実にその実を挙げていました。

ところが昭和20年8月9日、ソ連の参戦で怒涛のごとく満州に侵攻し、ソ満国境の無防備の開拓村は土地も家も財産も一切を捨てて、逃避行となりました。

「宝清事件」に遭遇、181人が犠牲に

9日午後2時、全員清和地区から脱出。進路を北に取り山中をさまよい、東横林から西に向け牡丹江方面めざして13日宝清郊外にさしかかったところ、襲撃され181人が犠牲になりました。宝清地区には関東軍の駐屯部隊がいたはずでしたが、前日にいち早く撤退していました。そのため満州国軍が反乱を起こし、日本人避難民を待ち構えて襲撃したものでした。

「佐渡開拓団跡事件」に遭遇、371人が犠牲に
宝清での襲撃で生き残った開拓団員たちは、さらに牡丹江をめざし21日には佐渡開拓団跡に到着します。そこには佐渡開拓団はすでに引き揚げた後でしたが、他からの避難民を含め約3000人が宿営していました。そこへ事件が起きました。

24日、佐渡開拓団の近くの畑にソ連軍の1機が不時着しました。血気盛んな開拓団員らが現場に駆け付け、搭乗兵と撃ち合いになり、機体を焼き払いました。この時はまだ誰もが日本の敗戦を知らず、ソ連とまだ交戦中だと思っていたからでした。

26日、ソ連軍トラック3輦、兵約60人が食糧などを持って帰順を勧誘に来たものを避難民側はてっきり報復に来たと勘違いしてこちらから攻撃する挙にでてしまったのです。ソ連軍は翌27日迫撃砲などで約1時間にわたり宿営地を砲撃し、徹底して殺害しまし

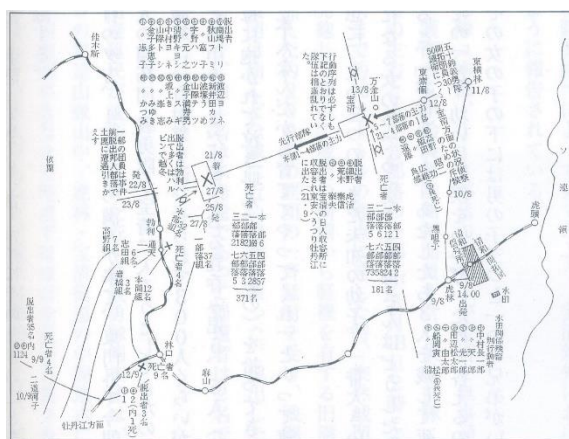
た。約2000人が犠牲になったとされます。

そのうち清和開拓団関係者は371人でした。

その後も逃避行中の犠牲者が

その後の逃避行中も、虐殺、暴行、略奪をほしいままにされ、自ら命を絶つ者、餓死する者、凍死する者、病死する者が続出し、「まさにこの世のものとは思えぬ」状況だったということです。こうして故国の土を踏んだ人はわずか50人でした。さらに帰国までもなく逃避行中の苦労がたたり、20人が病死してしまいました。(高橋健男編著『新潟県満州開拓史』参照)

清和開拓団避難・戦闘要図



(高橋健男編著『新潟県満州開拓史』より)

戦闘地域別死亡者

宝清181	佐渡開拓団371
通天駅4	林口9
二道河子2	脱出死亡4
未帰還者3	帰還者50
合計654	

上の表は、清和開拓団資料で「戦闘局面該当者区分表」からまとめたものです。

しかし資料によってはかなり差異があります。『満州開拓史』では、清和開拓団の終戦時の在籍者数は848人、うち146人が兵隊に取られ、死亡者297人、未引揚者293人、帰還者158人とあります。『開拓団実態調査表』では、終戦時の在団人数が916人で、その内訳は大人462人(男247人そのうち応召中が125人、女215人) 子ども454人でした。死亡者も最大690人という数字もあります。殉難者のなかに約670人の女性と子どもたちがいたことになります。